

## はじめに

### 問題演習の重要性

あたり前のことですが、大学入試では、与えられた設問に対して正解し得点を獲得しなければなりません。ということは、学習にあたっては、たんに知識をインプットするだけでは全く不十分であり、問題演習が必要不可欠です。

ただし「問題演習」といっても、何となく解答して答え合わせをして終わりとしたのでは、実力アップは望めません。まず、問題を解くにあたっては、なぜその選択肢が誤りなのか、自分がどうしてこれを正解だと判断したのか、きちんと根拠を明らかにしながら解答していく必要があります。「カン」で解いたのではダメです。そして、解説を読みながら、自分の判断根拠が適切だったかどうかを点検し、どのように考えれば正解できるのかを一つずつ確認していくことが重要です。正解の選択肢はもちろんのこと、誤りの選択肢についても、その記述がなぜ誤りなのか、きちんと押さえていく必要があります。正解以外の選択肢にも重要な受験情報が詰まっていますから、不正解だからといって無視せず、注意深く解説を読み進めましょう。こうした作業を通じて、習得した知識はより正確なものとなり、応用力も育成されていくはずですよ。

### 本書の特長

この問題集は、良問が揃っていることで知られてきたセンター試験「政治・経済」の過去問をもとに(有益なものであれば「現代社会」も利用して)編集・作成しました。実際の入試では総合問題として出題されることが通例ですが、ある単元を学習したのち、すぐにその単元の問題演習に取り組めるようにという配慮から、「step 1」では単元ごとに、知識や理解度をストレートに試す設問配列としました。そして「step 2」では、ややレベルを上げながら、その分野の本格的・実践的な総合問題を取り上げました。

本書を活用することで、「政治・経済」の正しい知識が身につき理解も深まるはずですよ。そして、知識を習得し理解を深めることは、大学入試対策としてきわめて重要なことです。本書を利用して、皆さんが自分の志望をかなえることができるよう、心から願っています。

# 目次

## 第1章 現代の政治

第1節 民主政治の基本原則	8
---------------	---

### step 1

- 1-1 民主政治の特質(国家と法) 8, 1-2 市民革命と人権宣言 9,
- 1-3 社会契約説 10, 1-4 人権保障の発達 11,
- 1-5 法の支配・権力分立 12, 1-6 世界の主な政治体制 13

### step 2

第2節 日本国憲法の基本原則	17
----------------	----

### step 1

- 2-1 日本国憲法の制定と基本原則 17, 2-2 基本的人権の保障 18,
- 2-3 平和主義 20

### step 2

第3節 日本の政治機構	24
-------------	----

### step 1

- 3-1 国会 24, 3-2 内閣 25, 3-3 司法 26, 3-4 地方自治 27

### step 2

第4節 現代政治の特質と課題	31
----------------	----

### step 1

- 4-1 選挙制度 31, 4-2 政党政治と政治参加 32,
- 4-3 世論とマスメディア 33, 4-4 行政権の拡大と行政の民主化 34

### step 2

第5節 現代の国際政治	38
-------------	----

### step 1

- 5-1 国際関係と国際法 38, 5-2 国際社会の組織化 39,
- 5-3 国際政治の動向 40, 5-4 国際政治の課題 41,
- 5-5 地球社会における日本の役割 42

### step 2

## 第2章 現代の経済

第1節 経済社会の変容	48
-------------	----

### step 1

- 1-1 資本主義の発展と社会主義 48, 1-2 経済学の歩み 49

### step 2

第2節 現代経済の仕組み	54
step 1	54
2-1 市場と企業	54
2-2 財政と金融	59
2-3 国民所得と経済成長	62
step 2	64
第3節 日本経済の発展	67
step 1	67
3-1 戦後日本経済の歩み	67
3-2 1980年代以降の日本経済	68
3-3 産業構造や経済環境の変化	72
3-4 中小企業・農業問題	74
step 2	76
第4節 労働と社会保障	79
step 1	79
4-1 労働問題	79
4-2 社会保障	82
step 2	85
第5節 国際経済	88
step 1	88
5-1 貿易と国際収支	88
5-2 為替相場	91
5-3 国際経済の体制と現状	92
step 2	96

### 第3章 現代社会の諸課題

第1節 日本社会の諸課題	100
step 1	100
1-1 消費者問題	100
1-2 公害・エネルギー問題	101
1-3 食料問題・地域問題	102
step 2	104
第2節 国際社会の諸課題	108
step 1	108
2-1 地球環境問題	108
2-2 冷戦終結後の国際政治の動向	109
2-3 戦後国際社会の諸問題	111
step 2	112

## 第5節 現代の国際政治

### step 1

#### 5-1 国際関係と国際法

問1 主権国家や国際法についての記述として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ウェストファリア体制成立以降のヨーロッパ社会においては、主権国家の独立と内政不干渉の原則が形成されてきた。
- ② 主権国家の概念を基礎とする国際社会においては、各国は対等・平等であることが原則とされている。
- ③ 国際法は、主権国家からなる国際社会で各国が守るべきルールとして形成されてきた。
- ④ 国際法の父グロチウスは、その著書「リバイアサン」のなかで、平和のための国際的な組織の必要性や常備軍の廃止を訴えた。

問2 国際法に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 国際法には、文書によって合意した条約と、口頭での合意によって成立する国際慣習法がある。
- ② 国際法の解釈について国家間で対立が生じた場合には、国連総会による解釈が正式の解釈とされている。
- ③ 条約が発効するためには、一般的に、各国の代表による署名と国内手続による批准が必要とされる。
- ④ 条約は、国家間で締結される以外に、巨大な多国籍企業の間でも締結される場合がある。

問3 国際刑事裁判所(ICC)において裁かれる行為とは言えないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 暴力や暴力による脅迫などによって、航空機を支配する行為
- ② 国際的な武力紛争で捕らえた敵国の戦闘員に対して、拷問する行為
- ③ 国民的・民族的・人種的または宗教的な集団を破壊するために、その集団の構成員を殺すという、ジェノサイド(集団殺害)行為
- ④ 一般住民に対する広範なまたは組織的な攻撃の一部として、奴隷の状態におくという、非人道的な行為

## 第5節 現代の国際政治

### step 1

#### 5-1 国際関係と国際法

解答  1  ④  2  ③  3  ①

問1  1  ④が正解。「リバイアサン」を著したのはホブズ(1588～1679)である。「国際法の父」と呼ばれるグロチウス(1583～1645)は、自然法思想に基づく体系的な書として『戦争と平和の法』を著し、国際社会にも平時だけでなく戦時にも守られるべき一定の共通法(自然法)が存在すると主張した人物。なお、「平和のための国際的な組織の必要性や常備軍の廃止」の必要性を訴えた人物にカント(1724～1804、「永久平和のために」を著した人物)がいる。

①ウエストファリア体制は、17世紀前半の宗教戦争である三十年戦争(1618～48年)を終結させるウエストファリア会議のあと、ヨーロッパに成立した国際秩序である。これが今日の主権国家を単位とする国際社会の原型となった。②主権国家についての記述として適当である。③国際法についての記述として適当である。国際法には、文書化されていないが、国際社会の一般的慣行となっている規範である国際慣習法と、国家間の意思を明文化した条約がある。

問2  2  ③が正解。条約締結の手続として適当な記述である。

①「口頭での合意」が誤り。国際慣習法は国際的に承認されてきた暗黙のルールのことである。②国連総会にそのような権限はない。④条約は国家あるいは国際機関が結ぶもので、民間企業が締結の当事者となることはない。企業相互の間で締結したもので法的な効力をもつものは契約である。

問3  3  ①が正解。2003年にオランダのハーグに設置された国際刑事裁判所(ICC)は、国際法上の重大な犯罪、具体的には戦争犯罪、人道に対する罪、ジェノサイド(集団殺害)罪などにかかわった個人を裁判する司法機関である。暴力などによって「航空機を支配する行為」、すなわちハイジャックは、国際刑事裁判所において裁かれる行為に該当しない。ハイジャックは、国際裁判ではなく、各国の国内の裁判で裁かれる。例えば、ハイジャック防止条約では、着陸国や容疑者所在国などに裁判権を認めている。